



新刊案内



2018年10月下旬発売

“京王線”に続く鉄道沿線史第3弾 !!

エコーする〈知〉

江ノ電沿線の近現代史

●著者:大矢悠三子●体裁:A5判・並製 約175頁【CPCリブレ No.7】

●定価:本体1,800円+税 ISBN978-4-908823-43-5 C0021

鎌倉や江の島という絶好の観光ポイントをもつ江ノ電。“海水浴場”の専門家が沿線に見えるいくつかの顔を、それぞれ色濃く投影して描く。藤沢、江の島、古都鎌倉と風光明媚な観光地を走る10キロ、15の駅。イラスト・図・写真・絵葉書入りで分かりやすく解説。本邦初の鉄道史・地域史・観光史!!

目次 <第1章> 江ノ電の開業—湘南トライアングルの形成 <第2章> 湘南の大都市・藤沢 <第3章> 憧憬の鶴沼—開発分譲型別荘地の嚆矢 <第4章> 大東京の風景地と湘南海岸 <第5章> 湘南のランドマーク—不思議アイランド・江の島 <第6章> 海岸線—「江ノ電のある風景」の変貌 <第7章> 鄙の地、聖地となる <第8章> 鎌倉を愛した文士たち <第9章> 由比ヶ浜に海浜院ありき <第10章> 古都・鎌倉に遊ぶ、暮らす あとがき 関連年表、参考文献付。



七里ヶ浜には、人びとに「富士」と「江の島」を連想させる歌があります。1世紀以上前、1910年に起きた逗子開成中学のボート転落事故で12人の若い命が海に消えました。生徒たちの合同葬儀の席で、鎌倉女学校の生徒が歌ったのが、同校教師・三角鈴子が作詞した鎮魂歌・真白き富士の根でした。歌詞のなかに、真白き富士の嶺、緑の江の島、という言葉があるこの歌は、真白き富士の嶺とも、七里ヶ浜の哀歌とも呼ばれます。その後、この鎮魂歌はレコードになり、また戦前と戦後に映画化もされました。白く冠雪する富士山と、豊かな緑を湛えて碧い海に浮かぶ江の島、この美しすぎる映像と哀しいメロディーにより、七里ヶ浜という地名は世の中に広く伝わっていったのです。当時の分譲地購買層にも、この歌は浸透していたことでしょう。海と富士山と江の島を望むこの地が、真白き富士の根、七里ヶ浜哀歌の地であることに付加価値を感じていたかもしれません。一本文第6章 海岸線—「江ノ電のある風景」の変貌 七里ヶ浜より

【著者プロフィール】 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程単位取得。人文学修士。(論文)「鉄道の開通と「湘南」イメージの形成」、「鉄道会社の観光政策と湘南」、「湘南海岸の変遷」ほか。(共編著)『湘南の誕生』、『東京オリンピックの社会経済史』ほか。現在、市川市史編さん専門委員。

●好評既刊 永江雅和著『小田急沿線の近現代史』本体1,800円 ISBN978-4-905388-83-8 C0021【CPCリブレ No.5】

●好評既刊 永江雅和著『京王沿線の近現代史』本体1,800円 ISBN978-4-908823-15-2 C0021【CPCリブレ No.6】

クロスカルチャー出版 〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6 電話03-5577-6707 ファクス03-5577-6708

書店印	発行: クロスカルチャー出版 TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708	
	<h3>江ノ電沿線の近現代史</h3> <p>■定価: 本体1800円+税 ISBN978-4-908823-43-5 C0021</p>	
ご担当者()	冊	お名前
	ご住所	電話